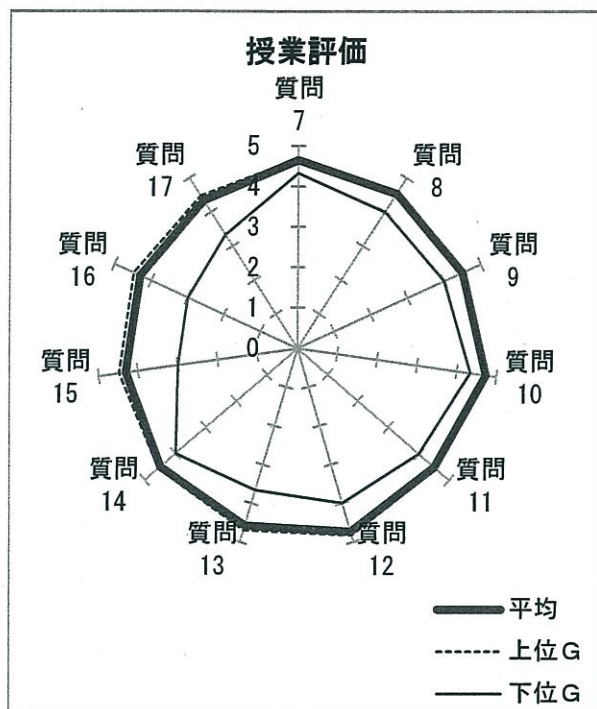


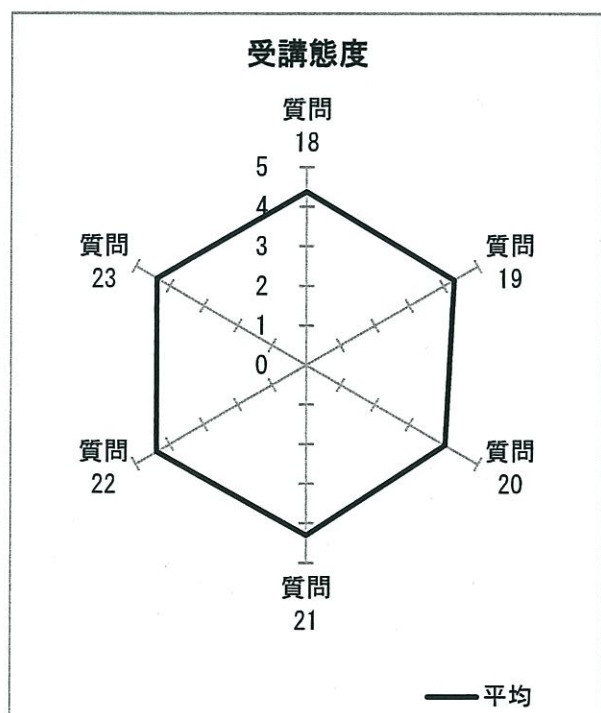
科目コード 105 (2018年度 前期)

国際文化学部・文学部 英語学科 香川 実成 TOEIC対策講座



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	4.3
質問 8	4.5	4.6	4.0
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問10	4.7	4.8	4.3
質問11	4.5	4.6	4.0
質問12	4.7	4.8	4.0
質問13	4.6	4.7	3.7
質問14	4.5	4.6	4.0
質問15	4.3	4.5	3.0
質問16	4.3	4.5	3.0
質問17	4.3	4.5	3.3
平均	4.5	4.6	3.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.0
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	香川実成	TOEIC 対策講座	26

2018 年度前期

授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教養教育の TOEIC 対策なので、英語学科以外の学科学生も受講してもらうのが目的の一つであり、映画語学科以外の学生が 14 名受講してくれた点はよかったと思う。しかし、質問項目 15「授業をできたか」、同 16「興味・関心・意欲を引き出したか」の 2 項目において、下位グループの評価が 3.0 と低く、英語の能力が異なるグループに対して、個別の対応ができていなかったと反省している。

II. 2019 年度に向けての取り組み

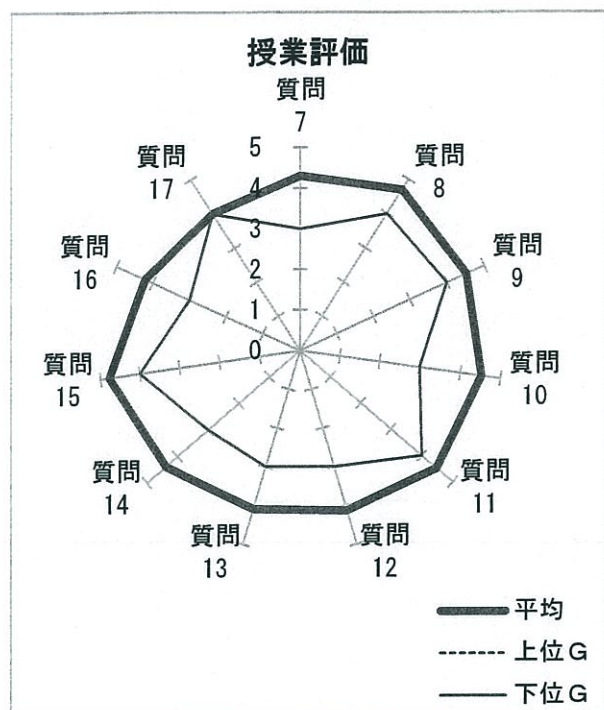
2019 年度担当予定科目名：TOEIC 対策講座

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

副教材として TOEIC フレーズブックを用い、定期的にボキャブラリーテストを実施することは、受講生の動機付けの維持にもつながると思うので、継続しておこないたい。そのボキャブラリーテストの結果等を踏まえて、理解度がやや低い学生がいる場合には、そのグループを念頭に置いてよりわかりやすい説明、指導を工夫する。

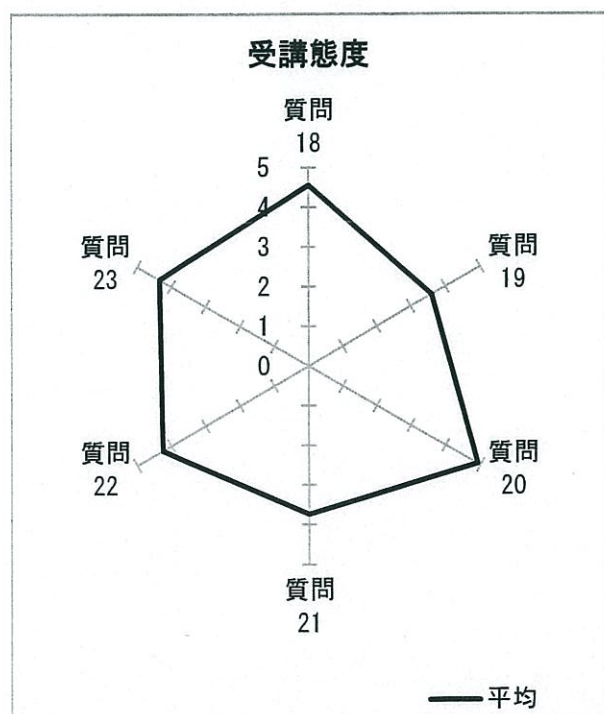
科目コード 112 (2018年度 前期)

国際文化学部・文学部 英語学科 狩野 暁洋 英語 I (食健1年)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.4	3.0
質問 8	4.7	4.7	4.0
質問 9	4.5	4.5	4.0
質問10	4.5	4.6	3.0
質問11	4.5	4.5	4.0
質問12	4.1	4.2	3.0
質問13	4.1	4.1	3.0
質問14	4.4	4.5	3.0
質問15	4.8	4.8	4.0
質問16	4.2	4.3	3.0
質問17	4.0	4.0	4.0
平均	4.4	4.4	3.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	3.6
質問20	4.9
質問21	3.7
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0 回→5 ポイント、1 回→4、2 回→3 …)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	英語学科	狩野 暁洋	英語 I	23

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

能力別上位クラスを担当した。どの質問項目も 5 段階評価で 4～5 という概ね良好な評価を受けている。下位 G から多少厳しい評価を受けているが、この層に該当する学生は 1 名のみである。この 1 名を除く全ての学生が上位 G に属するため、上位 G と平均がほぼ重なる結果となっている。出席状況や授業態度も極めて良く、ユニットテストや期末テストの成績も全体的に良好であった。

質問 17 に対する評価が比較的厳しい結果になっている。また、質問 19 に対する学生の自己評価も比較的低い。授業内容がリスニングやスピーキングなどのコミュニケーション能力の育成に赴きを置いているため、知識が潜在的しやすく、何を学んだのか明示化しにくいという側面があるかもしれない。

II. 2019 年度に向けての取り組み

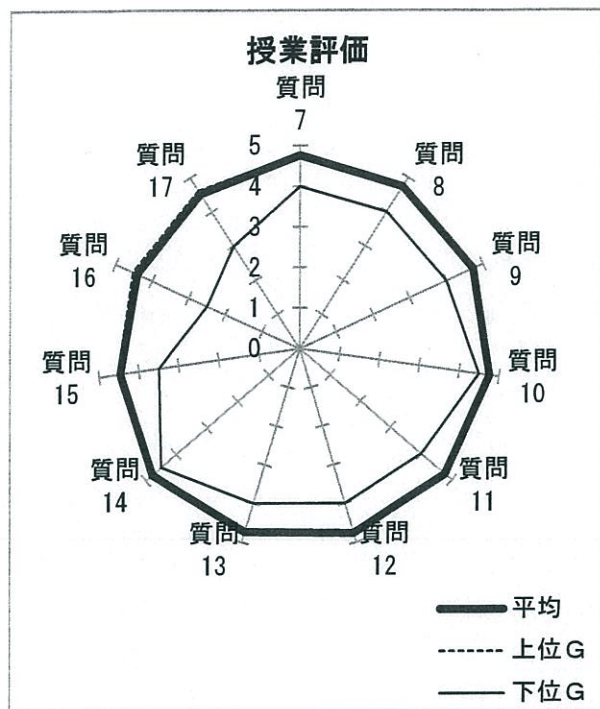
2019 年度担当予定科目名： 英語 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業の開始時と終了時に、目標となる言語項目と言語機能を学生に説明するように心がける。

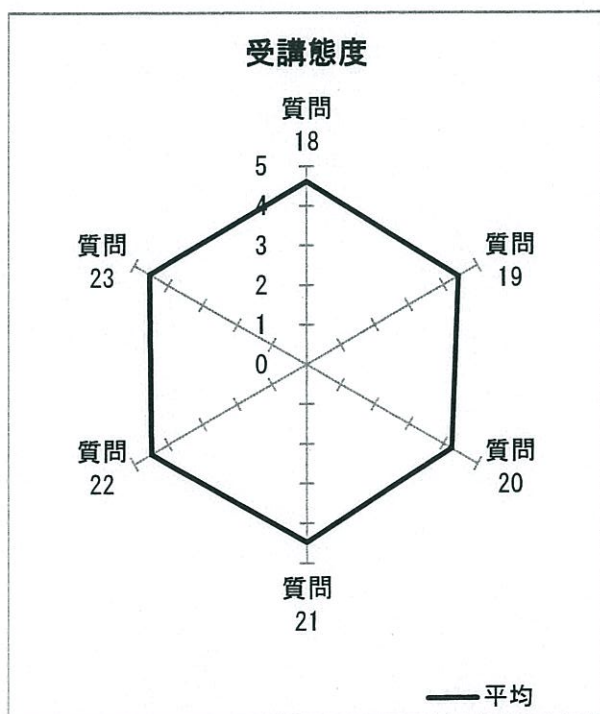
科目コード 126 (2018年度 前期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Sheila Norris キリスト教学 II (英語2年)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	4.0
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.7	4.8	4.0
質問10	4.8	4.8	4.5
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.8	4.8	4.0
質問13	4.7	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.5	4.5	3.5
質問16	4.4	4.5	2.5
質問17	4.5	4.6	3.0
平均	4.7	4.7	3.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.2
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化・文学部	英語学科	Sheila Norris	キリスト教 II(英二年)	26

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The average evaluations seem satisfactory, given that this is a required general studies course taught in English. The lower evaluations come for Questions 15-17, largely due to the ratings given by the two students in the lower motivation group. How we interest the students who do not prepare and review, and who therefore do not understand and do not find the classes interesting, is a vicious circle which creates a problem in all classes, not just this one. Whereas I am happy that the majority are learning, I hope to go on finding ways to make sure that the minority also make progress.

II. 2019 年度に向けての取り組み

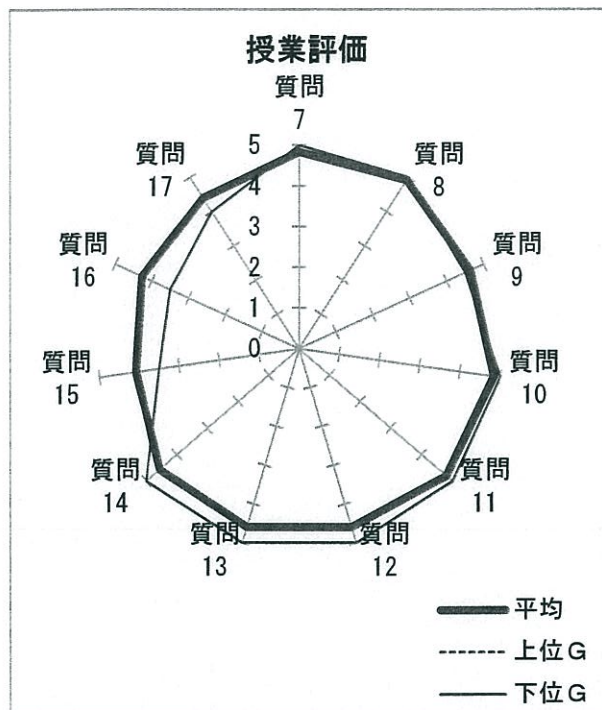
2019 年度担当予定科目名 : キリスト教学 II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Next year's English Department second year class will have 50 students, and the potential for students not being able to follow the class is much greater. Although I plan to continue teaching in English, it may be necessary to insist that students prepare by reading their Japanese Bibles before class so that they can follow more easily in English.

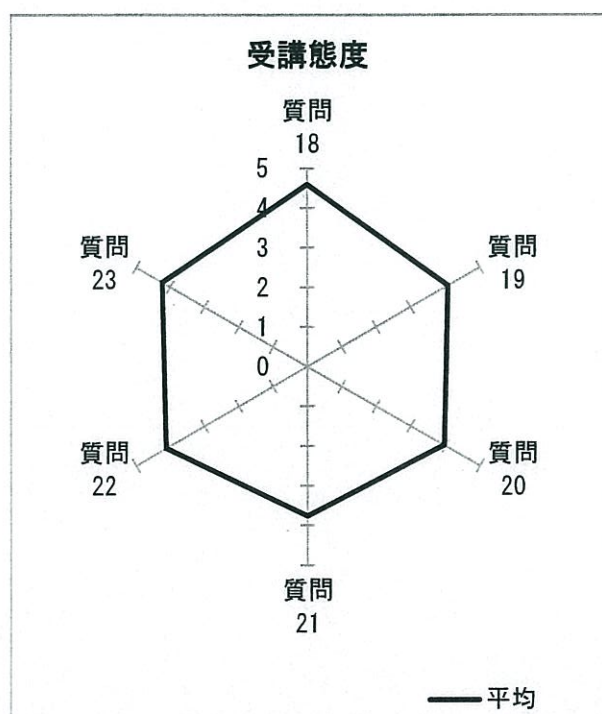
科目コード 137 (2018年度 前期)

国際文化学部・文学部 英語学科 Richard Bent 英語 I (英語1年、木曜クラス)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.6	4.7	4.5
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.6	4.6	5.0
質問13	4.6	4.6	5.0
質問14	4.6	4.5	5.0
質問15	4.1	4.1	3.5
質問16	4.3	4.3	3.5
質問17	4.4	4.4	4.0
平均	4.6	4.6	4.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.1
質問20	4.0
質問21	3.8
質問22	4.1
質問23	4.2
平均	4.1

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0 回→5 ポイント、1 回→4、2 回→3 …)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	英語 I	23

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

The course involved weekly reading assignments based on Japanese culture supplemented with teacher-provided timed reading exercises. The students hopefully learned to improve their reading speed and comprehension. The students appeared to respond reasonably well to the course. There were no major problems judging by the way the students responded to the class. It should be noted that the class which did this evaluation is the “upper” of two levels, so it is to be expected the “lower” students may not have responded quite so positively. However, having had feedback in the form of informal conversation and looking at evaluation materials such as quizzes and timed reading reports, it seems the lower classes still learned something positive from the course.

II. 2019 年度に向けての取り組み

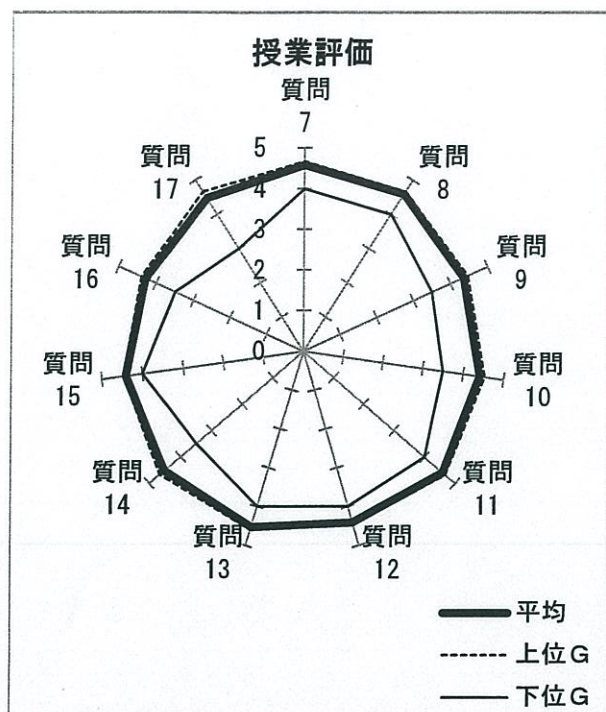
2019 年度担当予定科目名 : _____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

This course will no longer be offered in the next academic year.

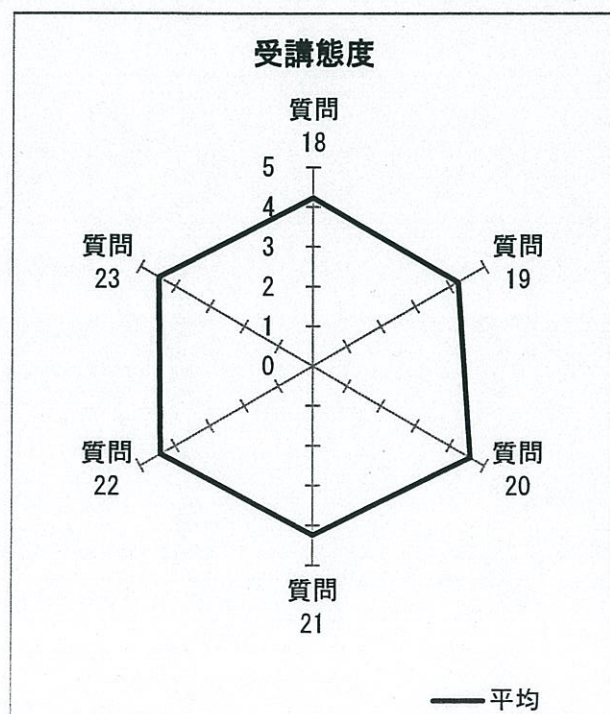
科目コード 240 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 宇佐美 寛 アプリケーション演習Ⅱ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.4	4.5	3.5
質問10	4.4	4.5	3.5
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.4	4.5	4.0
質問13	4.5	4.6	4.0
質問14	4.5	4.7	3.5
質問15	4.4	4.5	4.0
質問16	4.3	4.4	3.5
質問17	4.5	4.7	3.0
平均	4.5	4.6	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	宇佐美 寛	アプリケーション演習Ⅱ	18

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の調査項目 11 項目（質問 7～17）の評価平均は 4.3 から 4.6 の範囲に分布し、11 項目全体の平均値は 4.5 であった。「全実施科目平均値」と比較すると、ほぼ同様の数値となっている。

授業では、組版印刷システム TeX による文書作成、統計解析ソフト R 及び RStudio によるデータ可視化、R マークダウンを用いた動的レポートの作成などを取り上げた。内容的に少しハードルが高いかもしれないと懸念していたが、アンケートの結果から見て、一定の成果は得られたと考えられる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

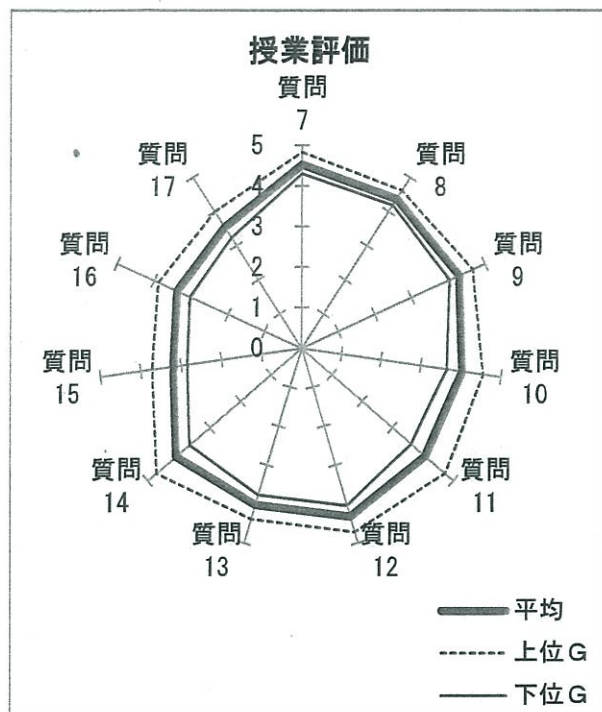
2019 年度担当予定科目名：アプリケーション演習Ⅱ

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

社会全体でデータ処理やデータ分析の重要性が高まっている中で、データを取り扱うときの標準的なツールとなっている R や Python を授業で積極的に取り上げていきたいと考える。

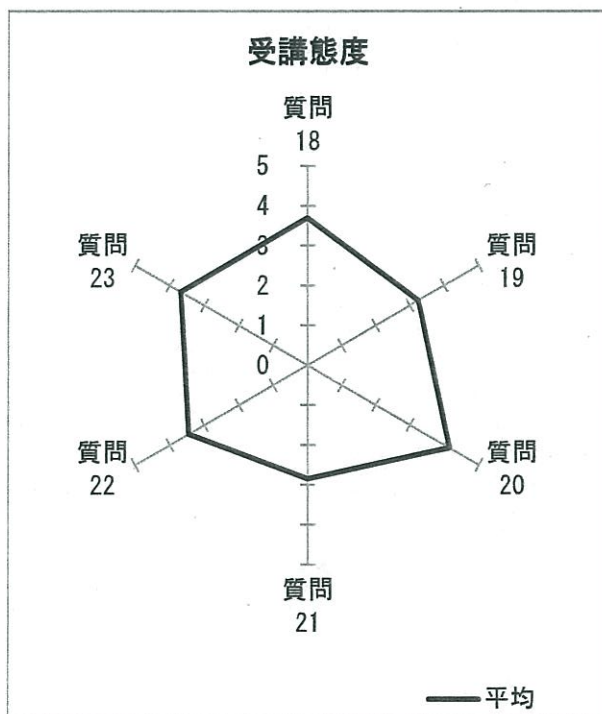
科目コード 310 (2018年度 前期)

文学部 人間関係学科 細井 浩志 日本の文化史



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.8	4.3
質問 8	4.4	4.6	4.2
質問 9	4.3	4.7	4.0
質問10	4.0	4.6	3.7
質問11	4.1	4.7	3.6
質問12	4.3	4.7	4.0
質問13	4.0	4.4	3.8
質問14	4.1	4.7	3.7
質問15	3.2	3.7	2.8
質問16	3.4	3.9	3.0
質問17	3.5	4.0	3.2
平均	4.0	4.4	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	3.7
質問19	3.3
質問20	4.1
質問21	2.8
質問22	3.5
質問23	3.7
平均	3.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
教養教育		細井浩志	日本の文化史	49

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今年も陰陽道史の概説をしました。受講人数も2017年度とくらべて42名から49名と若干増えただけですが、全体平均の評価が4.6→4.0と大幅に下がったのは残念です。上位平均も4.7→4.4、下位平均は4.1→3.7です。

全体に数値は下がっていますが、特に顕著なのは「受講態度」の質問21「授業の予習・復習をおこなったか」で、3.9→2.8と大幅に下がっています。これでは質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」の点数が下がるのもやむをえません。

II. 2019年度に向けての取り組み

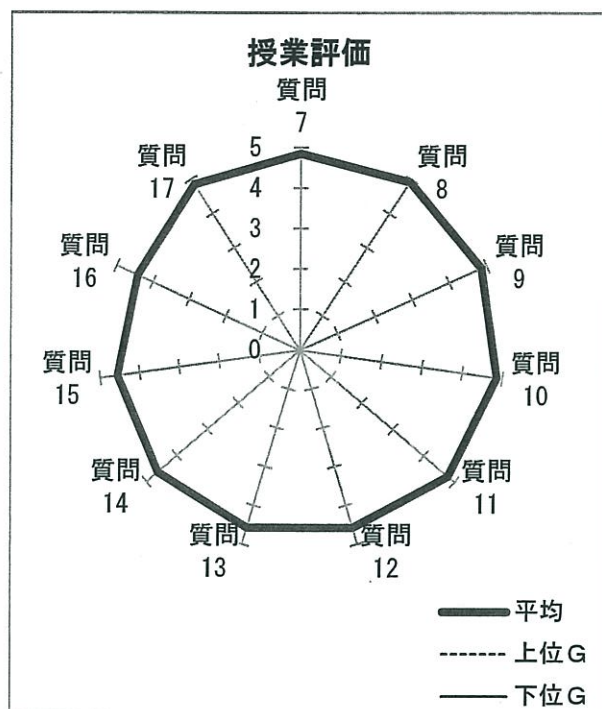
2019年度担当予定科目名： 日本の文化史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教養の授業なのですが、毎回の達成度（受講態度の熱心さ）をもう少し測るようにしようと思います。

科目コード 401 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 碓井 貴美子 ソルフェージュⅠa～Ⅳa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.4	4.4	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

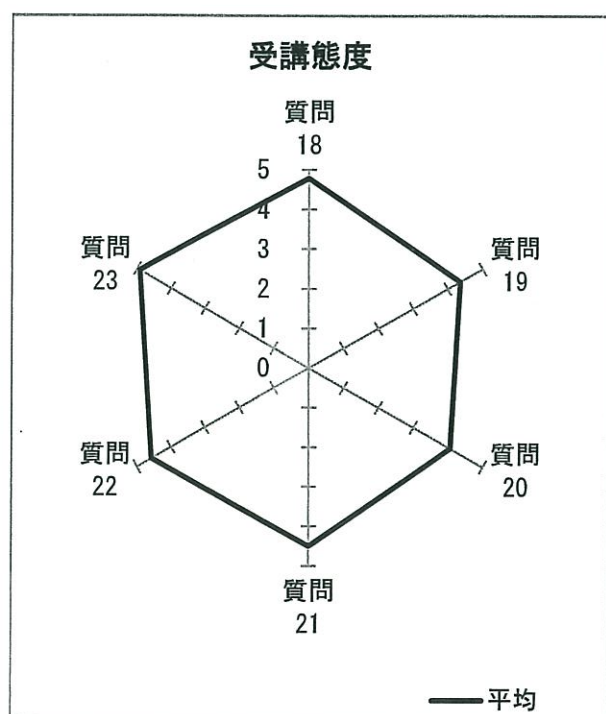
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.4
質問20	4.1
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.9
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	ソルフェージュ I a ～IVa	19

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

ソルフェージュ力は音楽のもっとも基礎となるもので、この勉強こそ音楽を志す者にとって必須の教科であると言えます。しかしながら、専門実技は定期的に続けてきている学生たちも、この分野の勉強は本学に来て初めて取り組んでいるという話をよく耳にします。ソルフェージュ先進国のフランスの教材を少しずつ取り入れながら、私のクラスは授業をおこなっておりますが、難しいものに、いかに興味を持たせるかという課題が常時出てまいります。難しいから頑張ってマスターしたい！その反対に難しいから私にはできない！それぞれの気持ちに寄り添いながら授業に取り組んでまいりたいと考えます。新しいことを知る喜びを分かち合いたいと思いながら、試行錯誤しております。

II. 2019 年度に向けての取り組み

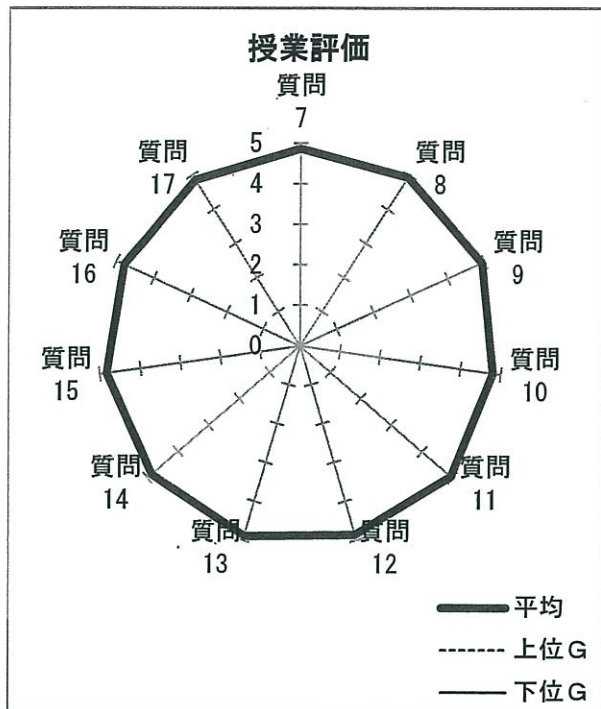
2019 年度担当予定科目名：ソルフェージュ I a～IVa

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

新しいこと、新しい刺激がとてもソルフェージュ能力を上げることに繋がってまいります。基本的な段階を早く通り抜け、社会に出た時にすぐに音楽人、音楽教員としてしっかり役目が果たせる高いソルフェージュ能力を身につけさせたいと強く思っております。社会に出ますと、音楽大学を卒業しているのならばこれは出来て当たり前という目で見られる場面がかなりございます。その場面で、自信を持って対応できる本学卒業生となる人材を育てるべく、こちら側も日々、教材研究をし、学生のレベルアップに邁進していきたいと考える所存でございます。

科目コード 403 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 椎名 雄一郎 音楽史概論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8：教員の授業時間遵守

質問 9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

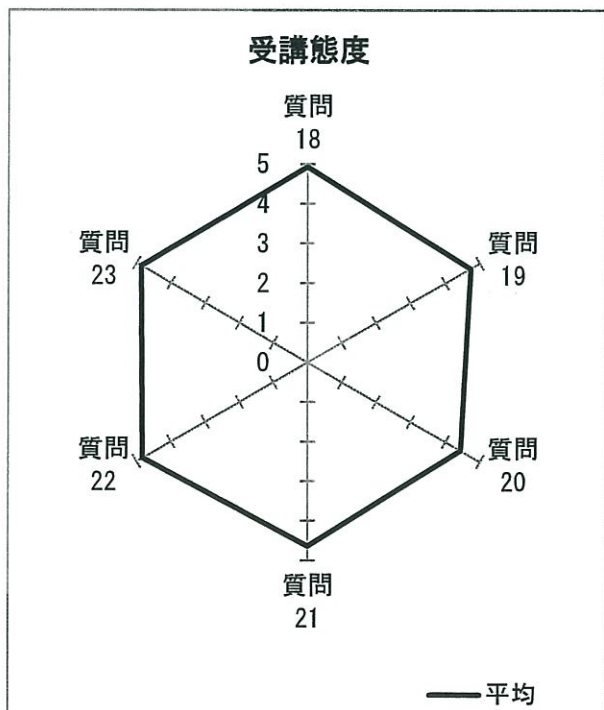
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.7

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名 雄一郎	音楽史/音楽史概論	31

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

音楽学科 1 年生の必修科目の音楽史の全 15 回の内、3 回を担当した。全体に熱心な学生と共に、音楽史の講義ができたことを感謝する。全体として上位、下位の違いなく評価としてはよかったと感じている。その中で 4.8 のものについて記す。板書などのわかりやすさについては、今後社会に出たときにも、重要な点を自身で書き留めることができるように、なるべく単語のみを板書し、内容は口頭で説明した。また説明の内容が理解できたか、その都度確認するとともに、さらにリアクションペーパーでも確認した。理解度の点では、進度が早かったため、理解が難しい部分もあったのではないかと感じる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

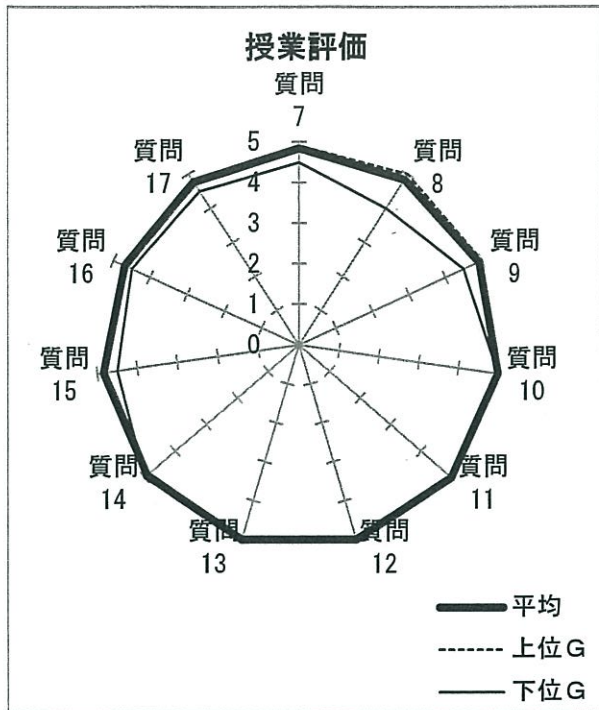
2019 年度担当予定科目名 : 音楽史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度は全 15 回を担当予定である。音楽史のすべてを取り上げることはなかなか半期の授業では困難である。しかし歴史間転換点を中心に来年度も取り上げていきたい。また 1 年生の必修科目であるため、学生が身につけるべき基礎的学修能力を養う授業としていきたい。特にノートの取り方、レポートの書き方については、粘り強く取り組んでいく。

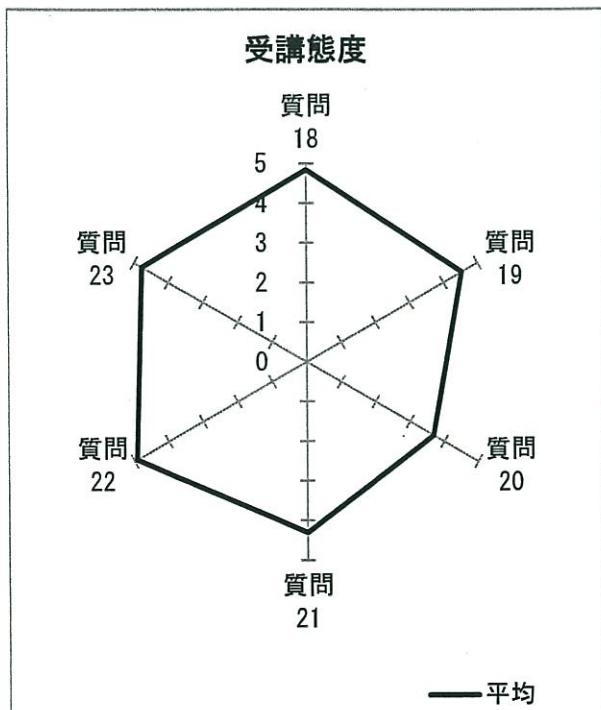
科目コード 404 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 持松 朋世 音楽科教育法 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.9	4.5
質問 8	4.8	5.0	4.0
質問 9	4.9	5.0	4.5
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	5.0	5.0	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.8	4.9	4.5
質問16	4.7	4.7	4.5
質問17	4.8	4.8	4.5
平均	4.9	4.9	4.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	3.7
質問21	4.3
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.5

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	音楽科教育法 I	13 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業の実際と集計結果より、授業を行う上で学生の授業評価と受講態度において本評価は平均的なものと受け止める。授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われることから、今回の結果を受けて学生を如何に授業に積極的に臨ませるか、授業へのアプローチ方法などにおいても検討の必要性を感じる。

これらの結果から授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであり、初回の授業時には授業における到達目標を意識付けるなどし、さらに本時の目標、そして授業終了時には本時の振り返りを行い、本時の学びを各々が得るなど、学生自身が PDCA を繰り返しながら今までの学びの本質化や継続化、総合化を図ることが必要と思われる。今後その他の授業でも学生に対しより良い授業を提供する為の検討を行っていききたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：音楽科教育法 I・II・III・IV

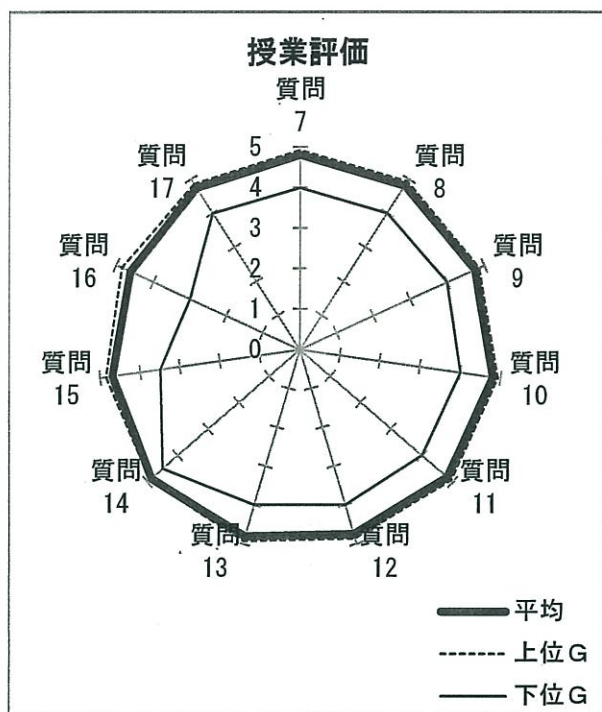
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019 年度も同様に音楽科教育法 I～IV の授業を行うことになるが、昨年度の反省を活かしてさらに計画的に取り組んでいく予定である。学校教育の中では、授業の開始時間に教員が本時の目標を提示し、生徒と共に学ぶ体制を整えておくこと、さらには終業時には本時の学びを振り返り、次時への見通しを立てることが必要である。将来教育者を目指す学生の為の授業として授業時間の厳守、授業目的の明確化などを、一方通行の授業ではなく学生の学ぶ意欲を高める授業の在り方について、検討を重ねたい。

学生は教員の姿を映す鏡である。言葉で伝えられないことも学生は教員の在り方一つで伝わってしまうという厳しさを忘れずに、特に教科教育法の授業では座学と現場での実践に繋がるという緊張感を持って授業を展開したい。

科目コード 419 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 椎名 雄一郎 ソルフェージュⅠa～Ⅳa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.8	4.9	4.0
質問10	4.8	4.9	4.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.8	4.9	4.0
質問13	4.8	4.9	4.0
質問14	4.9	4.9	4.5
質問15	4.7	4.9	3.5
質問16	4.6	4.9	3.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.8	4.9	3.9

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8：教員の授業時間遵守

質問 9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

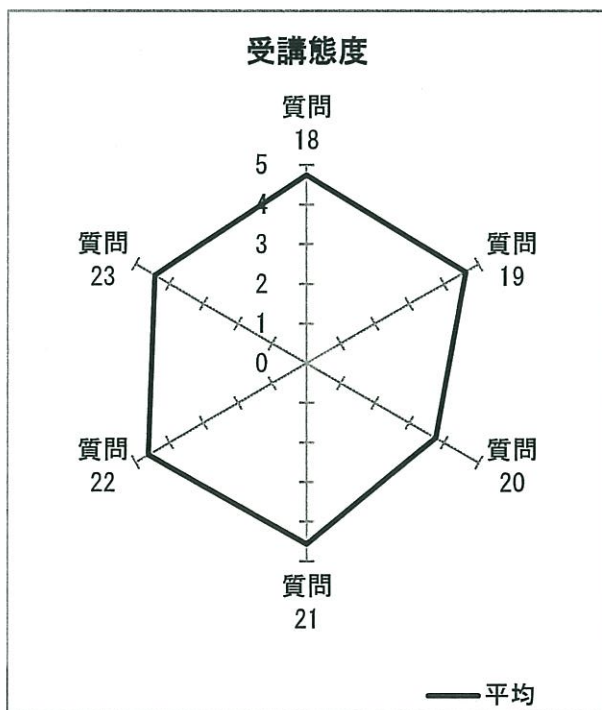
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	3.8
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.5

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名 雄一郎	ソルフェージュⅡa～Ⅳa	16

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

ソルフェージュの授業は、クラス別に行われているため、シラバスでは全体の目標が示されているが、具体的な内容は各教員に任されている。今回の評価で低評価は、学生が理解できたか、また関心・意欲を引き出したかの設問である。ソルフェージュの授業がクラス授業で行われている限り、どうしても平均的なレベルで授業を進めてしまうため、このような学生の評価になることが、想定できる。今期はなるべく一人ひとりの課題を実際に見ながら、授業を進めた。そのため低評価をつけている学生も、「どちらともいえない」し評価している。一定の成果は出ているのではないかと考える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：ソルフェージュⅡa～Ⅳa

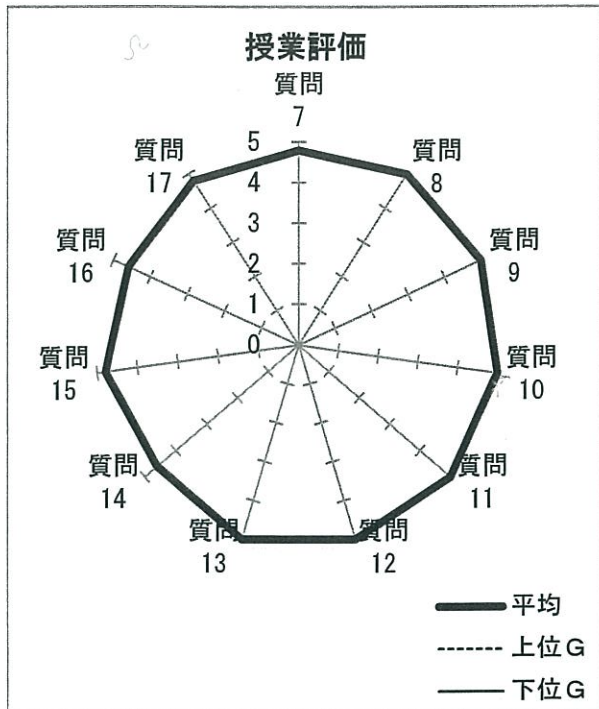
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

後期もほとんど同じ学生を対象に授業をおこなう。引き続き学生 1 人 1 人の進度に気を配りながら、授業を進めていきたい。

ソルフェージュは、音楽の基本である。少人数の授業であるから、学生 1 人 1 人にある程度私自身が目標設定をして臨むことも重要であると感じた。学生の苦手な部分を把握し、各学生のソルフェージュ能力向上に取り組みたい。

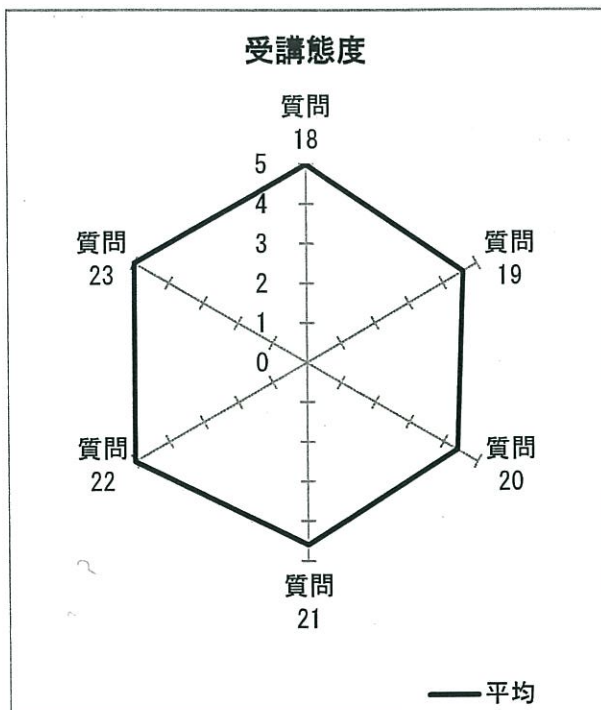
科目コード 421 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 音楽理論Ⅱa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.6
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤 豊	音楽理論Ⅱa	5

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この学年は実に集中力のある学生によって行われた。少人数ということもあるが、問題の解答については正解を出す確率が非常に高かった。それによって授業の効率が上がり、進度も飛躍的に伸びた自分は、専任教員としてこの授業を担当するのはこれが最後となるが、実に良い思い出となった。ただ、授業の楽しさとは何か、教師が意図する指導方法に問題がなくても、学生の充実感はあるのか。授業に笑いは必要なのか、雑談は必要なのか。こちらの思い通りに進んだ授業に、学生たちの達成感があったのか。28 年間の教授生活に大きな疑問だけが残ったような気がする

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 指揮法

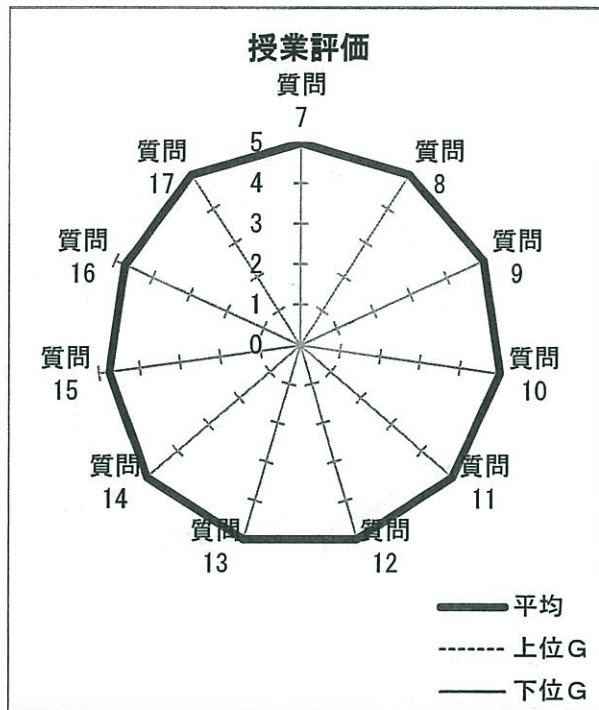
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度より、非常勤として上記の科目を担当する。

理論と実践を含めた講義で、学生の関心度も高い。頑張っていきたいと思う

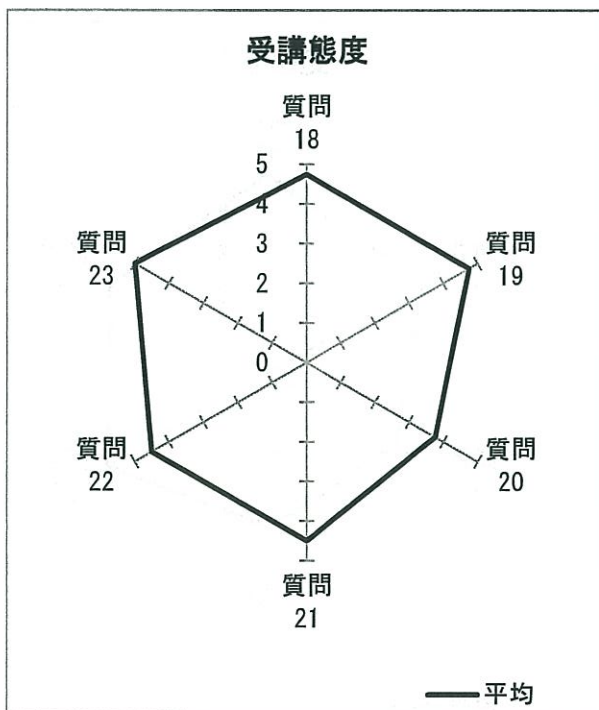
科目コード 422 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 ソルフェージュⅡa～Ⅲa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	3.8
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	5.0
平均	4.5

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	ソルフェージュ Ⅱa～Ⅲa	8

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今年から、一つの課題に対して多面的なアプローチをきがけて行うようにしたのが、グラフに表れているように思う。。具体的には、聴音の課題を書きとるだけでなく、記憶させたり、伴奏を付けて歌わせたりなど、西洋音楽に必要な和声感覚を身に着けさせるような工夫を行った、また、新曲視唱も積極的に授業に取り入れ、単旋律だけでなく、クラシックスタイルらジャズスタイルまでの伴奏つきのものや、自作のものまでを課題として提示した。結果として、試験結果も良好で複数名が後期から上のレベルのクラスに移動する結果を出せた。

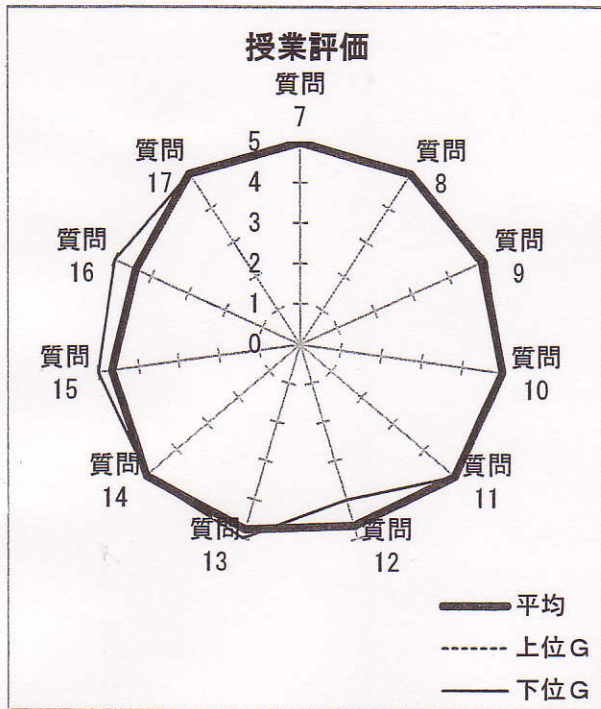
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : ソルフェージュ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)
 まだまだ苦手なハ長調以外の調や複旋律、和声などの聴音、またあまり手を出せなかったハ音記号などのクレ読みにも挑戦したいと思っている。また、より楽しめる新曲視唱の課題の研究にも取り組んでいきたい。

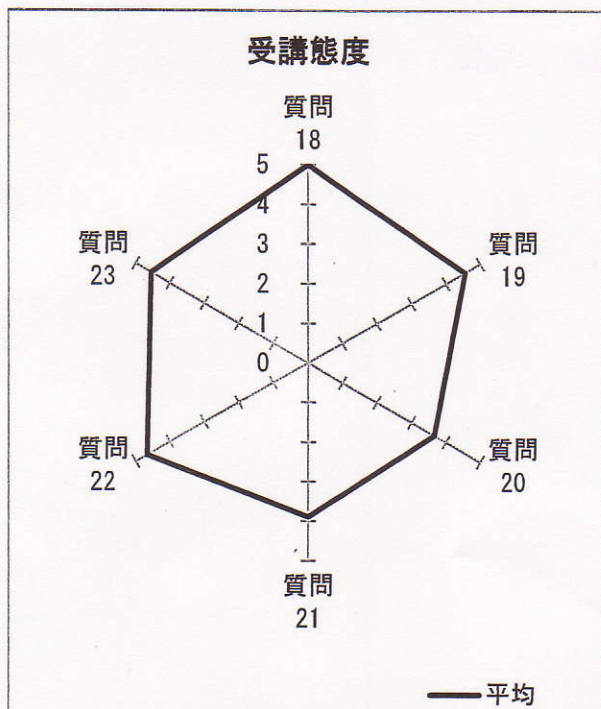
科目コード 423 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 吉田 峰明 ソルフェージュ Ia



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	4.7	4.8	4.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	5.0	5.0	5.0
質問15	4.7	4.6	5.0
質問16	4.4	4.4	5.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	4.9	4.9	4.9

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8：教員の授業時間遵守
 質問 9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.6
質問20	3.7
質問21	3.9
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.4

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽	音楽	吉田峰明	ソルフェージュ I a	9名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価はほとんど 4.7 以上であったため、若干ながら低めの項目について検証する。「教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」で 4.0 があったが、やや他学生態度の気になる学生がいたのだと思う。ただ聴音という、音の聴き取り訓練では、夢中になるあまり他者への配慮が難しい学生がいても仕方なく、こちらから注意するのも憚られる。が、全員が集中して取り組めるよう、環境には引き続き配慮していく。「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」で 4.4、「(自分は) 授業を理解できたと思うか」で 4.6 があったことについて、これも音楽基礎能力訓練の授業である以上、なかなか難しいところである。受講生が半ば楽しく学べるよう、いろんな手法を開拓していきたい。

受講態度では「欠席回数」「授業の予習・復習を行ったか」でやや低いポイントがあった。欠席回数については、木曜日の 1・2 限目に新戸町で、ということからやや苦手な学生がいたのだと思う。予習復習も、なかなか自律的に行いにくい科目ではあるが、必要なこととしてこの先、指導を徹底していく。

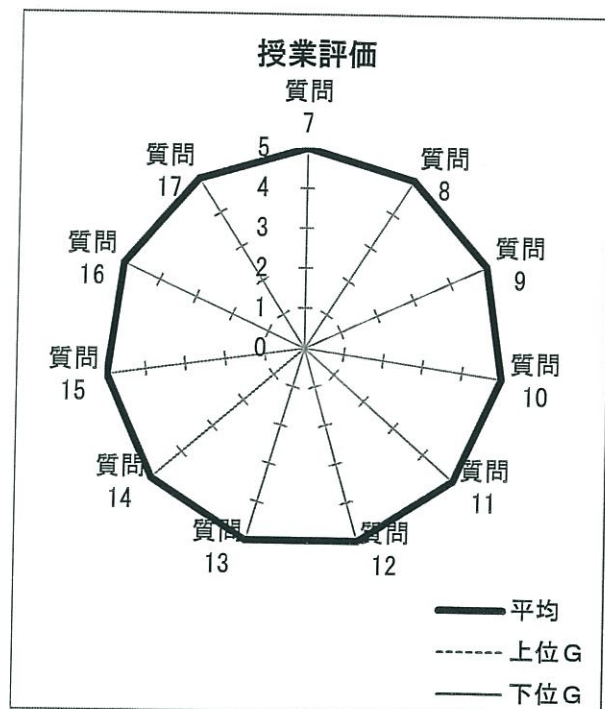
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：ソルフェージュ I a

他教員との分担担当であるため、この科目については継続して検証していきたい。担当クラスも今回は 1 年生の一番基礎的なクラスであったが、2019 年度は未定なため、受講生たちの能力と授業内容との関連性における検証は意義があることだと思う。

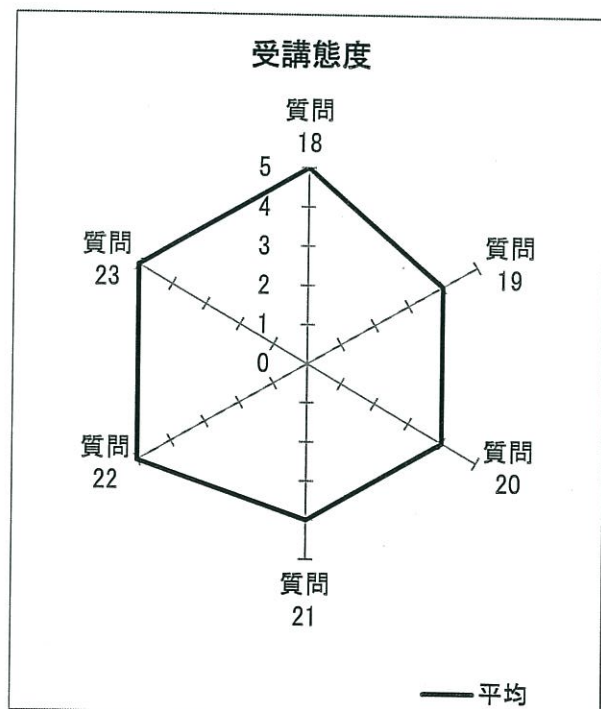
科目コード 629 (2018年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 学校栄養教育論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.0
質問20	4.0
質問21	4.0
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	学校栄養教育論	1 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・履修者が 1 名であるため、一方的な講義になりがちであったり、演習に広がりがないなどの問題点があった。
- ・理解したかの確認が口頭でできるところは良い点だが、その質問も学生には気づまりではなかったか。
- ・教職専門教科の最初の科目であるため、初めは学生に戸惑いが見られた。現場の様子を交えて講義することで、徐々に学修すべき内容について理解していったものと思われる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

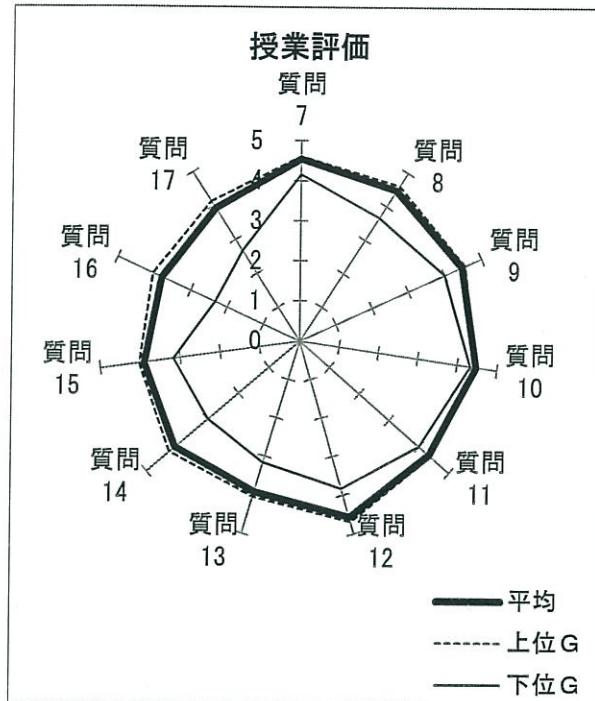
2019 年度担当予定科目名：学校栄養教育論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・次年度も少人数の講義になると思われるが、細かいところまで指導できる点を生かし、慣れあいやマンネリに陥らぬよう工夫したい。
- ・今現在の学校の様子を伝えられるよう、資料や情報収集に努めたいと考える。

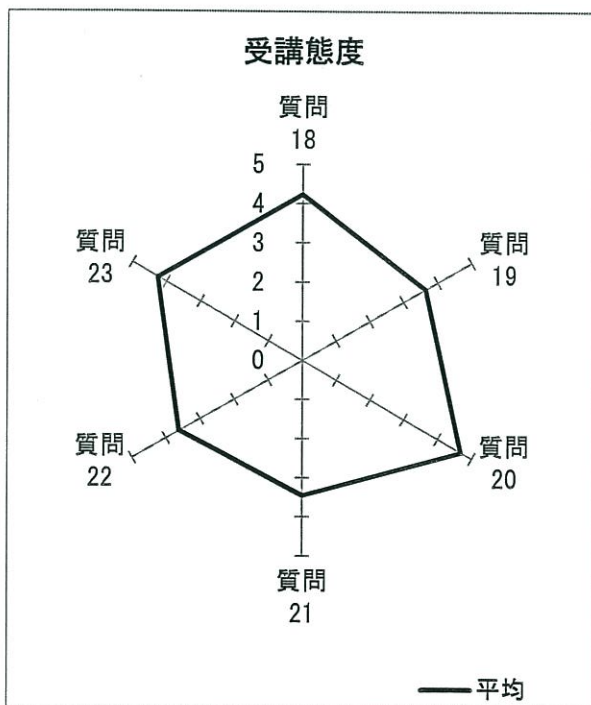
科目コード 656 (2018年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 生命の科学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.6	4.2
質問 8	4.5	4.6	3.7
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問10	4.5	4.5	4.3
質問11	4.3	4.4	4.0
質問12	4.6	4.7	3.8
質問13	3.9	4.1	3.2
質問14	4.1	4.3	3.0
質問15	3.9	4.0	3.2
質問16	3.8	4.0	2.3
質問17	3.9	4.1	2.7
平均	4.2	4.4	3.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	3.6
質問20	4.7
質問21	3.5
質問22	3.6
質問23	4.2
平均	4.0

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活	食生活健康	松永 知恵	生命の科学	42

2018 度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全学教養科目の選択科目なので学生の授業に対するモチベーションには大きな差があったと推測される。また、高校までに科学系（化学、生物、物理、地学など）を履修しなかった学生が多かった。授業に動画を取り入れるので「わかりやすい」「面白かった」という感想は出るが、理解できない内容はあったようである。

全体的に良い評価であったが、下位 G に着目すると質問 16、17 は非常に低い点であった。上位 G との差も大きく、この評価からも学生のこれまでの知識の差が大きく影響していると推測できる。しかしながら、今後も状況は変わらないと思われる。基礎知識がない学生にとって本科目の授業は難しいと感じていた結果なので、これまで以上に、わかりやすいテキストを選び、スライドや配布プリント、科学的な動画、板書などを随時取り入れて、わかりやすい授業を心がけたい。授業の説明はもっと噛み砕いて、基礎の基礎から説明する必要性をあらためて実感した。

II. 2019 年度に向けての取り組み

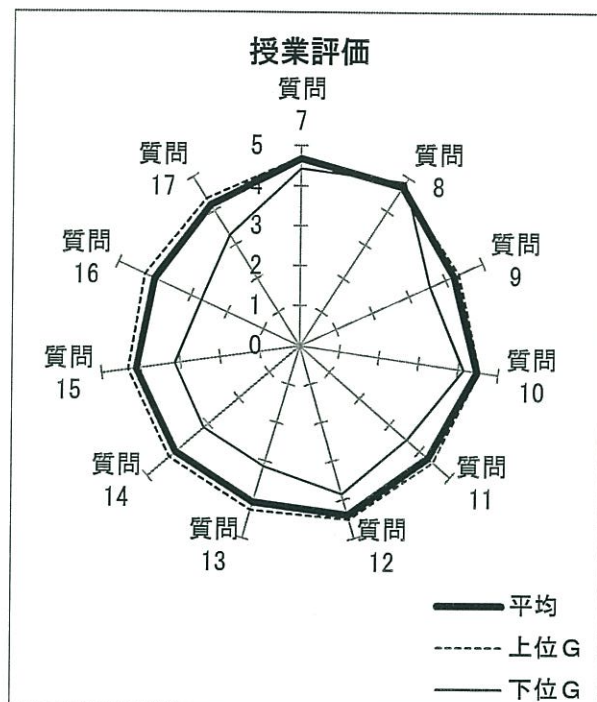
2019 年度担当予定科目名： 生命の科学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

毎年、高校生のときに理科系の科目を学ばずに入学してきて、本科目を履修する学生がいる。また、「かがく」という言葉自体に苦手意識を持つ学生もいる。単に卒業単位のためだけに履修している学生も多い。教養科目を受講する学生の授業に対するモチベーションは、年々格差が大きく広がっているように感じる。今年度の結果を踏まえ、理解度の把握や授業の進め方、わかりやすい教材の作成など、今後も工夫を続け、充実した教育内容にしたい。

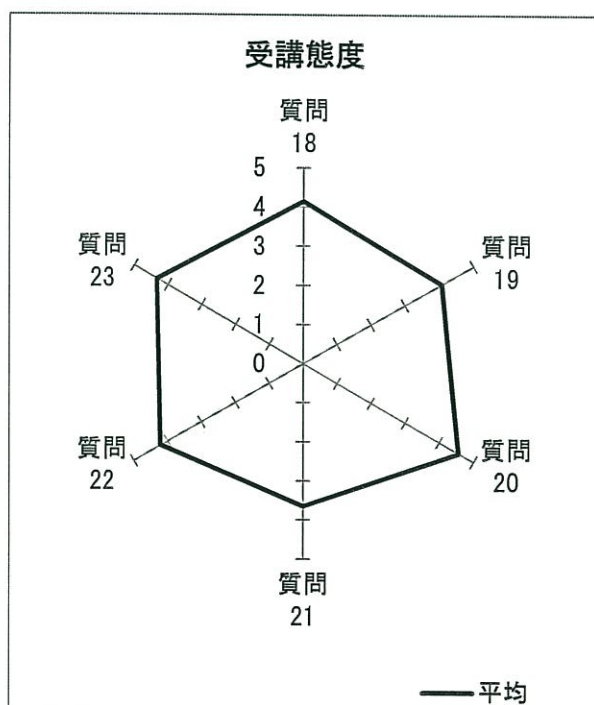
科目コード 657 (2018年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 食べ物と栄養



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	4.4
質問 8	4.7	4.7	4.9
質問 9	4.2	4.4	3.6
質問10	4.5	4.5	4.1
質問11	4.3	4.4	3.6
質問12	4.4	4.5	3.9
質問13	4.1	4.3	3.1
質問14	4.1	4.3	3.1
質問15	4.1	4.3	3.1
質問16	4.0	4.3	2.7
質問17	4.2	4.4	3.3
平均	4.3	4.4	3.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.1
質問20	4.6
質問21	3.7
質問22	4.2
質問23	4.3
平均	4.2

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	食べ物と栄養	47 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価はほぼ昨年同様である、上位グループの評価はそれほど悪くはないが、説明や進め方を僅かに改善しながら進めたにも関わらず、特に下位グループの評価が思わしくない。学生自身の受講態度評価はそれほど低くはない。学生の自己評価をさらに高め満足度を高めていくことが教員の授業評価の上昇につながっていくと考える。専門科目と異なり、教養科目でいかに興味・関心・意欲を引き出し、理解してもらうか、さらなる努力を要すると考える。

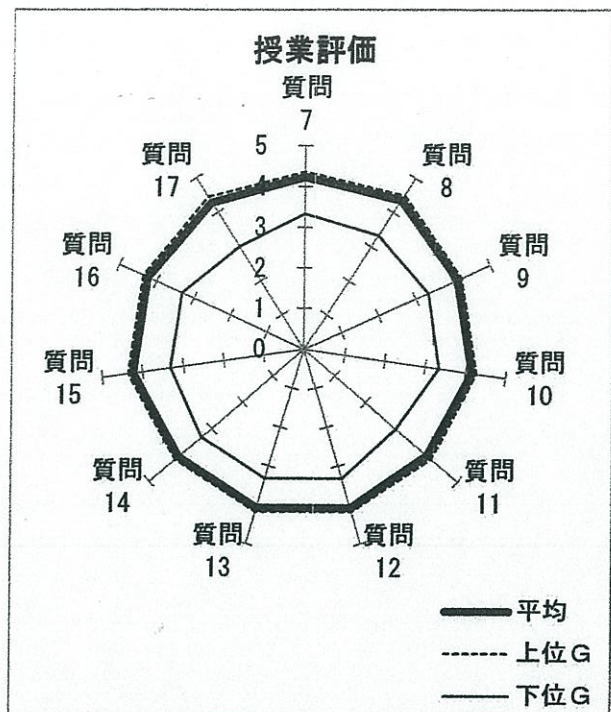
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：食べ物と栄養

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。OHC や教材用 DVD などの映像をこれまで以上に利用し、また世の中の最新情報なども取り入れて学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。毎回のコメントカード提出も続けて、さらに効果的な活用方法を工夫する。

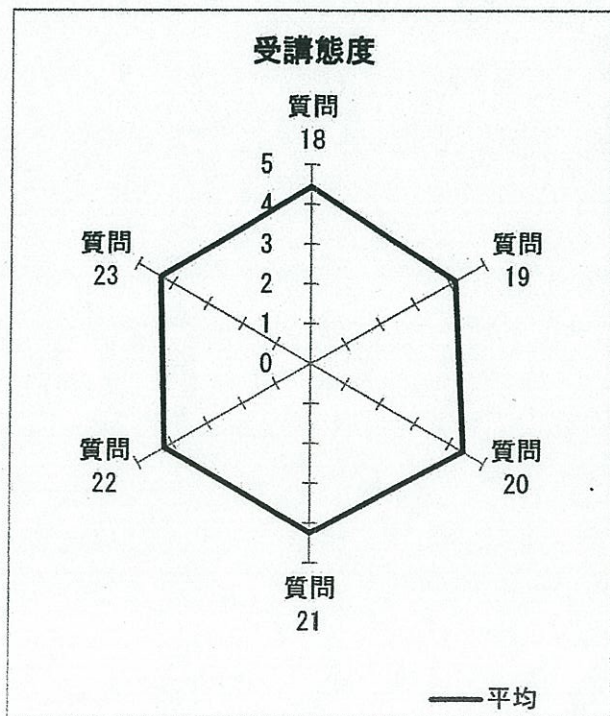
科目コード 707 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築計画



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.4	3.3
質問 8	4.4	4.5	3.3
質問 9	4.1	4.2	3.3
質問10	4.2	4.3	3.3
質問11	4.0	4.1	3.0
質問12	4.1	4.2	3.3
質問13	4.1	4.2	3.3
質問14	4.1	4.2	3.3
質問15	4.2	4.4	3.3
質問16	4.2	4.4	3.3
質問17	4.3	4.5	3.0
平均	4.2	4.3	3.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.4
質問21	4.2
質問22	4.2
質問23	4.4
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン	橋口 剛	建築計画	27

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業数が限られる中で、建築という幅広く奥深い分野について唯一、その全体像に触れることのできる授業であったため、どこに焦点を当ててレクチャーしていくかに苦慮し、また焦点を絞り込み、授業を進めたという意味では、チャレンジングな授業となった。

特に、生活デザイン学科の授業の中でもとりわけ建築という分野は小難しい内容を含んでおり、学生の興味にばらつきがあることから、そのギャップをどのように埋めていくかが難しいところと言える。

そのような中で、平均点が 4.2 点であったことは、まずまずの結果と言える。教科書の内容に加え、実務における経験上の説明をして加えて講義を進めたことなどが一定の評価につながったのではないと思われる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

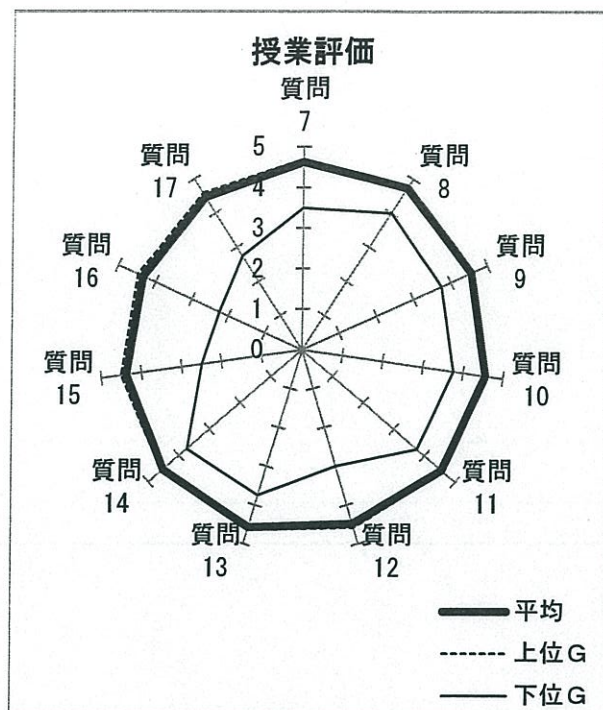
2019 年度担当予定科目名 : 建築計画

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生によっては、興味を感じることができず、居眠りなど授業態度に現れていたもので、さらに学生が興味を覚えるよう、体験を通した授業を行っていけるよう、授業内容の改善を図りたい。

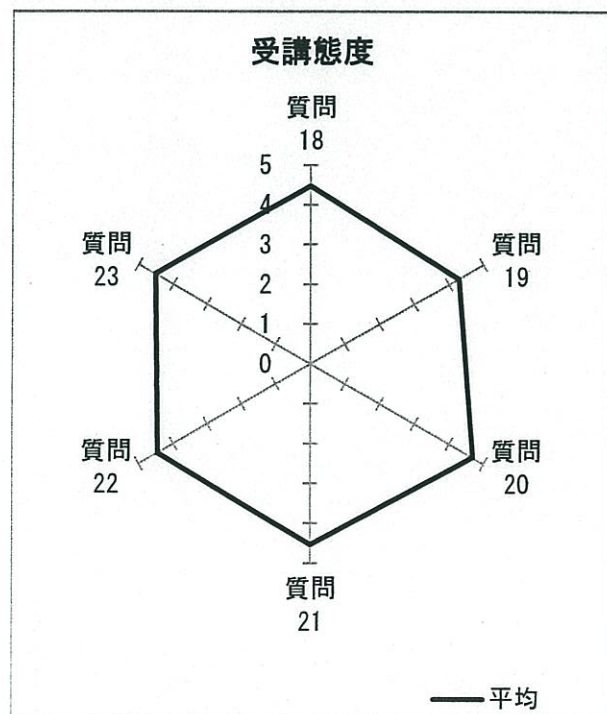
科目コード 826 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 田淵 久美子 教育原理(教職)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.7	3.5
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.6	4.6	3.8
質問10	4.6	4.6	3.8
質問11	4.5	4.6	3.8
質問12	4.5	4.6	3.0
質問13	4.6	4.6	3.8
質問14	4.5	4.6	3.8
質問15	4.4	4.5	2.5
質問16	4.3	4.5	2.3
質問17	4.5	4.6	2.8
平均	4.5	4.6	3.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.7
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田淵久美子	教育原理（教職課程）	62

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今期の結果を見ると、受講態度上位グループ（58名ぐらい？）と受講態度下位グループ（4名ぐらい？）の評価の差が全体的に大きくなっていった。質問15の授業を理解できたかという内容については、下位グループが2.5ポイントと上位グループの4.5と大きく離れているように、質問15～17の差が大きい。下位グループの学生にとっては理解できず興味もない科目となっている。教職課程の科目であることから、はじめは試しに取る学生も多い。例年、教育原理を落として教職課程の履修を続けない学生が多い。教職を続けてみようと思うかどうかを決めるきっかけになっていることが考えられる。

理解度の差の大きさややる気のない学生がいることは、日常的に行っているコメントシートの内容で把握できるところもあったが、とくに疑問点が書かれていることも少なく、質問も講義の時間中にはない。疑問として何を書いていいか分からない可能性もある。いつも悩むことだが、資格科目のため、分からない学生にどう対応するのかが課題であると感じた。また、昨年に比べ、全体的に理解度は下がっている。

II. 2019年度に向けての取り組み

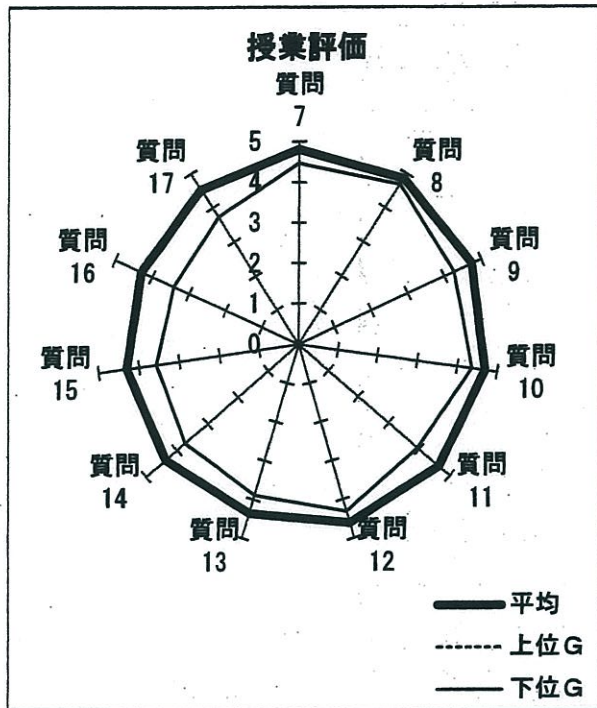
2019年度担当予定科目名：教育原理

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

上記の課題から、学生が何について分かっていないのか（おそらくは高校までの学習の内容が多いと感じている）を確認する必要がある。また理解の差を少しでも少なくするためには、個別指導しかないと考えられるので、そのような時間を取るか、個別に質問に来ることを促すなどの工夫を行う。

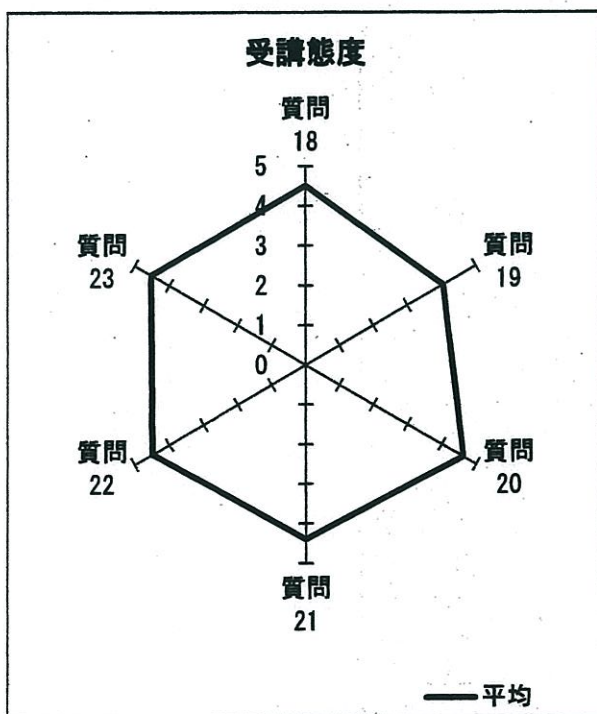
科目コード 836 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 シチズンシップ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	4.5
質問 8	4.9	4.9	4.7
質問 9	4.7	4.8	4.3
質問 10	4.7	4.7	4.4
質問 11	4.6	4.7	3.9
質問 12	4.6	4.6	4.3
質問 13	4.4	4.4	3.9
質問 14	4.4	4.4	3.7
質問 15	4.3	4.4	3.6
質問 16	4.3	4.4	3.4
質問 17	4.5	4.6	3.7
平均	4.6	4.6	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問 10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問 11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問 12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問 13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問 14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問 15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問 16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問 17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問 18	4.5
質問 19	4.0
質問 20	4.6
質問 21	4.4
質問 22	4.5
質問 23	4.5
平均	4.4

質問 18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問 19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問 20 : 欠席回数 (0 回→5 ポイント、1 回→4、2 回→3 …)
 質問 21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問 22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問 23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
全学部	全学科	石川由香里	シチズンシップ	300

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

卒業後に社会に出ることも見越して、「活水に入学したら、最低限、これだけのことは理解してもらいたい」という観点から設定された全学必修の授業科目である。全学必修になっているが、もともと社会的事象に興味のない学生も多いことは重々承知している。とくに、留学生にとっては基礎知識がなく、困難な科目になってしまっていると思う。質問 11「説明のわかりやすさ」について、下位グループでとくに数値が落ちていることには、そうした理由もあると思われる。

各自で予習をしてきた内容について、いくつかのグループに分けてディスカッションをしてもらい、発表する形式をとっている。それは双方向的な授業を目指してのものであるのだが、実際には予習をしてこないものや、話し合いに積極的に参加しない学生も存在している。そのことが、まじめに取り組んでいる学生のモチベーションを下げる結果にもつながっている。様々な学生がおり、中には他者とのコミュニケーションを苦手とする学生も見受けられ、その割合も年々、増加している。学生を十分に巻き込んだ授業とならなかった点が最も大きな反省点と言える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：シチズンシップ

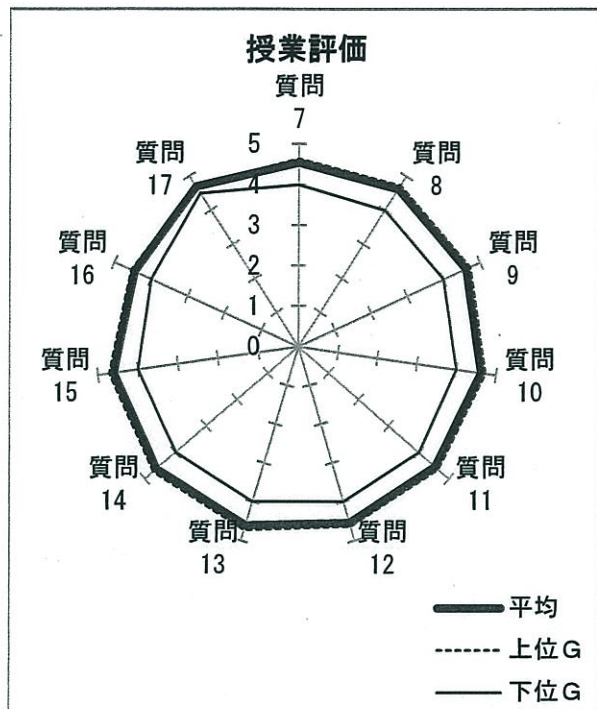
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教養セミナー I での新聞購読を活かすように、今後はより多くの時事問題について取り上げることで、基礎知識がない学生にもある程度関心を持ってもらえるような教材づくりをしていきたい。

また授業後に感想を書いてもらうようにしているが、枚数が多いこともあり、その内容を十分に紹介できていなかったもので、今後はより多く紹介し、授業に反映させていきたい。

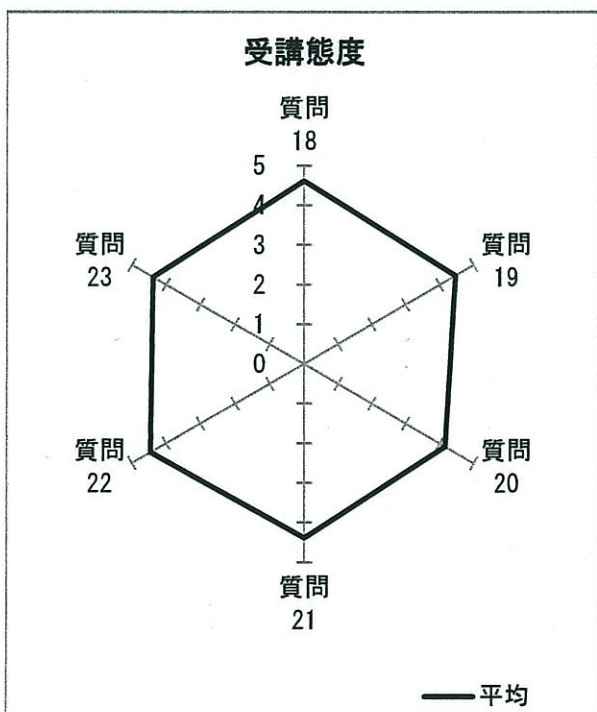
科目コード 530 (2018年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 教養セミナー I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.5	4.6	4.0
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.6	4.7	4.0
質問10	4.6	4.7	4.0
質問11	4.5	4.6	4.0
質問12	4.5	4.6	4.0
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.6	4.7	4.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.5	4.5	4.0
質問17	4.7	4.7	4.5
平均	4.6	4.7	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.2
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
全学部	全学科	阿南 祐也	教養セミナー I	18 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本授業の到達目標は、知識の習得、スタディ・スキルの習得、批判的視点の育成、他者理解であった。新聞スクラップを学修のツールとし、学生同士でディスカッションする機会を設けながら「正解」を求めるだけでなく「成解」を求める大学生らしさを身につけて欲しいという意図を伝えながら授業を進めていった。授業評価はおおむねポジティブな評価を得ることができた。しかし、まだ改善すべき事項は多いと感じる。せっかく行っているスクラップを授業内で活用すること、スクラップなどの活動の意味づけをきちんと明示することなど、より充実した授業内容としたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

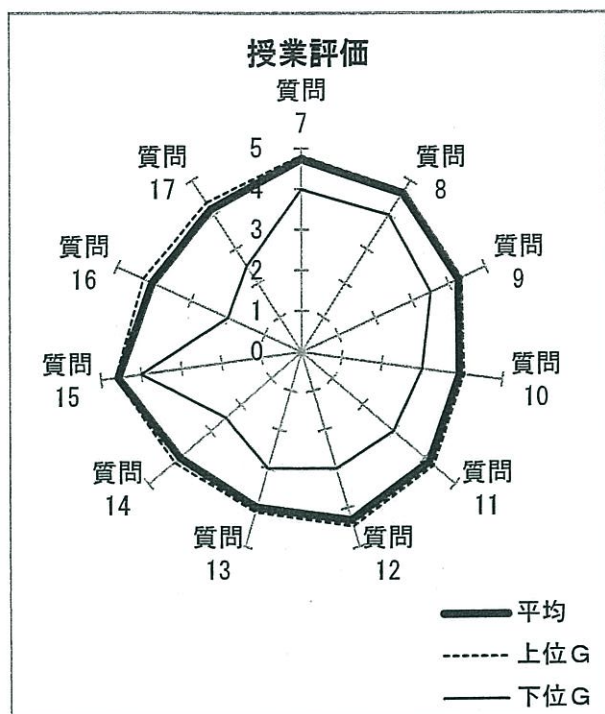
2019 年度担当予定科目名：教養セミナー

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度以降は前期のみの開講となるため、シラバスも変更の必要がある。到達目標も含めて教養セミナーの授業で学生に身につけさせるべき知識、技能などを再考し、本学学生が 4 年間で成長できる礎となる科目としたい。

科目コード 533 (2018年度 前期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 教養セミナー I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.8	4.0
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.3	4.4	3.5
質問10	3.9	4.1	3.0
質問11	4.2	4.3	3.0
質問12	4.3	4.5	3.0
質問13	4.0	4.1	3.0
質問14	4.0	4.2	2.5
質問15	4.6	4.6	4.0
質問16	4.1	4.3	2.0
質問17	4.2	4.4	2.5
平均	4.3	4.4	3.1

質問 7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8：教員の授業時間遵守

質問 9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

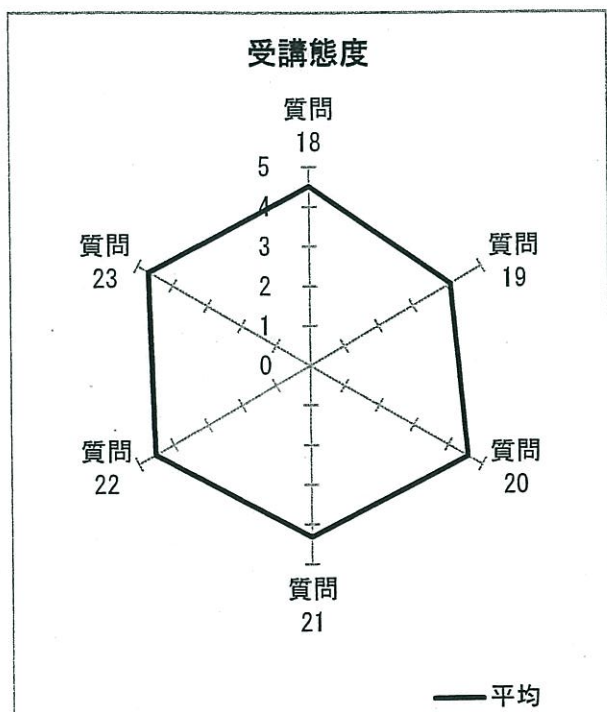
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.6
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.7
平均	4.5

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤豊	教養セミナー I	19

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

自分は、この科目の学生評価へのコメント書くことを希望していなかったにも拘らず、評価グラフが入っていたので、いささか驚いた。

専門以外の内容を学生に教授する困難をいつも感じながら、学生の反応に気を配りながら行った。授業とは自分の専門的知識を背景に、学生達には説得力のある講義を展開しなければならないと思う。学生達の前に立つ以上、自分は教師でなければならないと思うし、この講義を展開するには自分はまだ人生経験が浅いことを感じた。

やはりあやふやな理論を時々、伝達しようとしたことの学生からの不信感を受けたような気がする。

II. 2019 年度に向けての取り組み

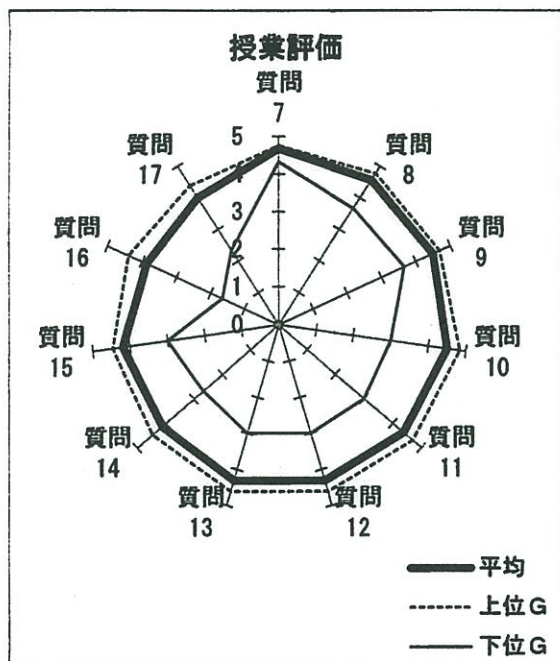
2019 年度担当予定科目名：楽曲分析

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度で上記の教養セミナーからは遠ざかることになるが、非常勤として、楽曲分析の最後の 1 年を有意義なものにしたいと考えている

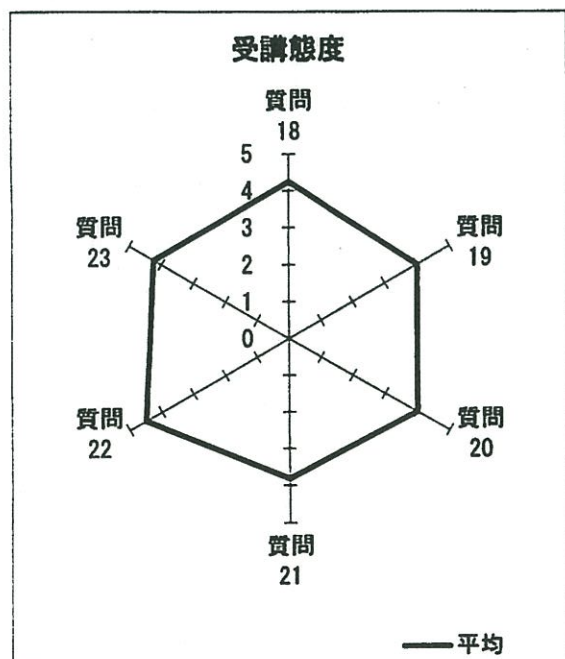
科目コード 537 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 教養セミナーⅠ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.8	4.3
質問 8	4.6	4.8	3.7
質問 9	4.5	4.7	3.7
質問10	4.5	4.8	3.0
質問11	4.4	4.7	3.0
質問12	4.3	4.6	3.0
質問13	4.3	4.6	3.0
質問14	4.1	4.5	2.7
質問15	4.2	4.5	3.0
質問16	3.9	4.4	1.7
質問17	4.0	4.4	2.3
平均	4.3	4.6	3.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.0
質問21	3.8
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.1

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	教養セミナー I	18

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問 16、17、14、15 の数字が低い。また、下位 G の数字が著しく低い。

特に下位 G の質問 16 が極端に低くなっている。授業の内容が、興味・関心・意欲を全く引き出されることが無い内容であるということ。全学統一の内容ではあるが、その中で担当教員による学生の興味・関心・意欲を引き出す仕掛けやアイデアがもっと必要とされている。ひたすら耐え忍ぶ 90 分では無く、興味を持って受講することが出来る雰囲気と内容を作ってゆかねばならない。

II. 2019 年度に向けての取り組み

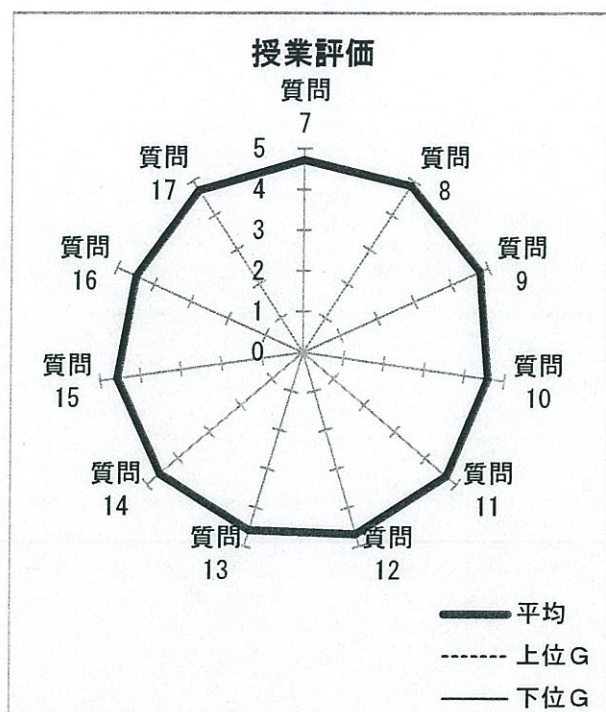
2019 年度担当予定科目名： 教養セミナー

久しぶりに担当した科目であったが、コースブックも担当していたときとは異なり、とても充実したものになっていた。ただ、前期の最後に提出するレポートへの段階を踏んだ見通しがやや甘く、そのことが授業評価アンケートの数字に表れていたと考えられる。

次年度は自分の見通しを明確にして、学生が意欲的に取り組むことができる授業を作ってゆきたい。

科目コード 541 (2018年度 前期)

国際文化学部 日本文化学科 村元 宏行 教養セミナーⅠ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	4.5	4.5	#DIV/0!
質問17	4.7	4.7	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

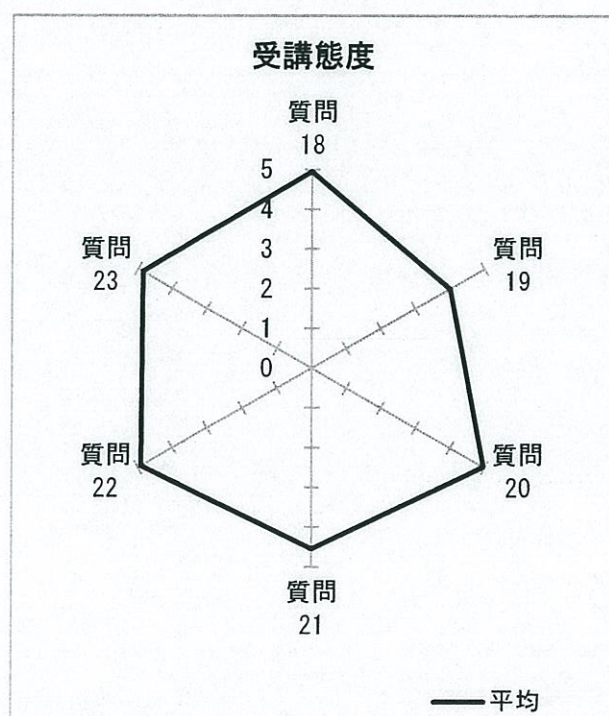
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.0
質問20	5.0
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	村元 宏行	教養セミナー I	24人

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教員の所属学部は国際文化学部ですが、履修者は全員看護学部です。

授業評価について、一番評価の低かった項目は「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」であり、次いで「学生の理解度の確認と授業への反映」、「授業を理解できたと思うか」、「教材・機器・板書等の効果的な活用」という項目でした。

このことからすると、教養セミナー I は、大学における学びの導入的な科目であり、これからの大学での意欲を高める上で非常に重要な位置づけを持つ科目であるにもかかわらず、その意義を満たしうるだけの授業を提供できていないことになります。

学生の理解度の確認と授業への反映についても、授業で適宜確認していましたが、不十分であったと反省しています。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 教養セミナー

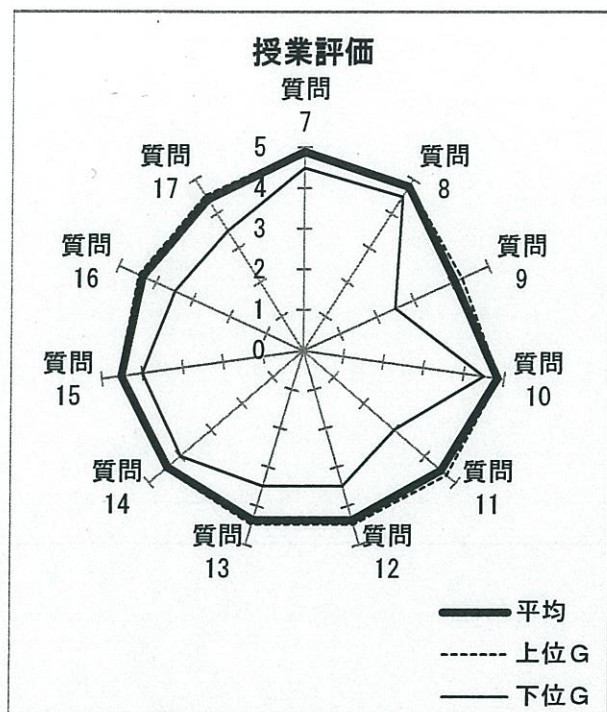
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度に向けては、入学間もない学生に、大学での学びの意欲を高めることができるよう工夫するようにします。また、授業態度は全体的に良好であるようですので、それに的確に応えることができるように心がけたいです。

具体的には、新聞スクラップや時事ワークシート等の事前課題について、やってきているかをチェックするだけでなく、その内容について個々にアドバイスするように心がけます。また授業内での課題についても、教員が独自に丁寧な解説を加えるように心がけます。

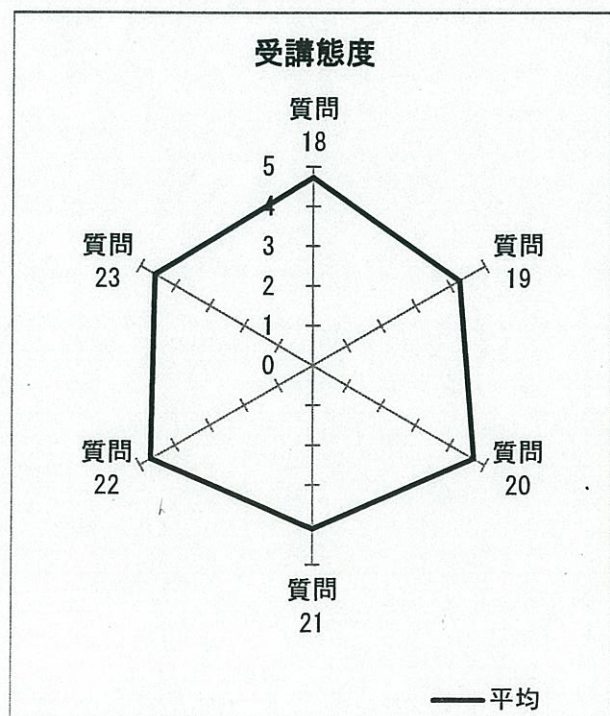
科目コード 542 (2018年度 前期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 教養セミナー I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	4.5
質問 8	4.8	4.8	4.5
質問 9	4.1	4.3	2.5
質問10	4.8	4.9	4.5
質問11	4.5	4.7	3.0
質問12	4.4	4.5	3.5
質問13	4.4	4.5	3.5
質問14	4.4	4.5	4.0
質問15	4.5	4.6	4.0
質問16	4.4	4.5	3.5
質問17	4.4	4.5	3.5
平均	4.5	4.6	3.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.3
質問20	4.7
質問21	4.1
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0 回→5 ポイント、1 回→4、2 回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	教養セミナー I	19

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問 9（教員の話し方）の評価が他と比べて明確に低い。

→学生からのコメントにも、声が小さいとの意見があり、声に通っていないことが考えられる。

- ・質問 11 の説明のわかりやすさは、上位下位の差が大きいため、言葉の選び方や、例えを用いた説明
 等など、説明の補足、充実を意識する必要性がありそうだ。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：

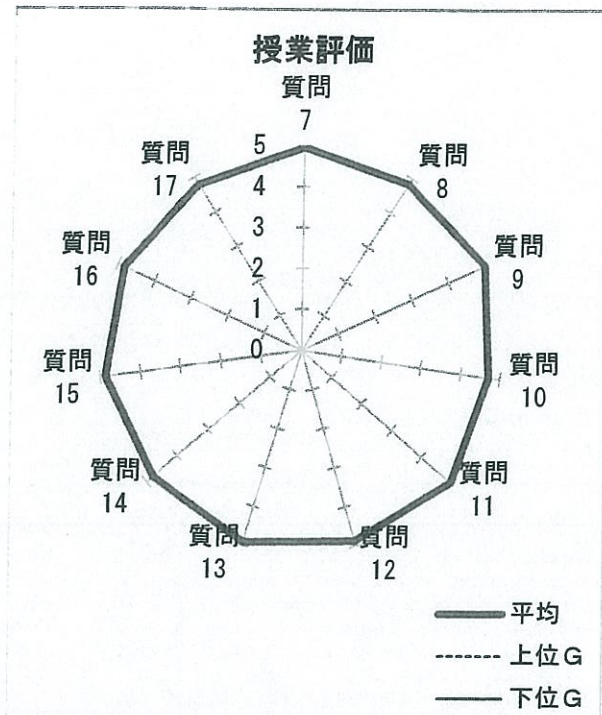
基礎製図、デッサン、インテリアデザイン、インテリアコーディネート、建築材料学、
インテリア材料、プロダクトデザインⅢ、色彩論、建築設備、建築法規、建築史、
学科専門セミナー、卒業研究

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

- ・教養セミナー I は予定していないが、アクティブな授業スタイルの場合は、同様の評価となる可能性
 が高い為、講義の授業に対しても、取り込んでいく機会が考えられる為、参考にしていく。

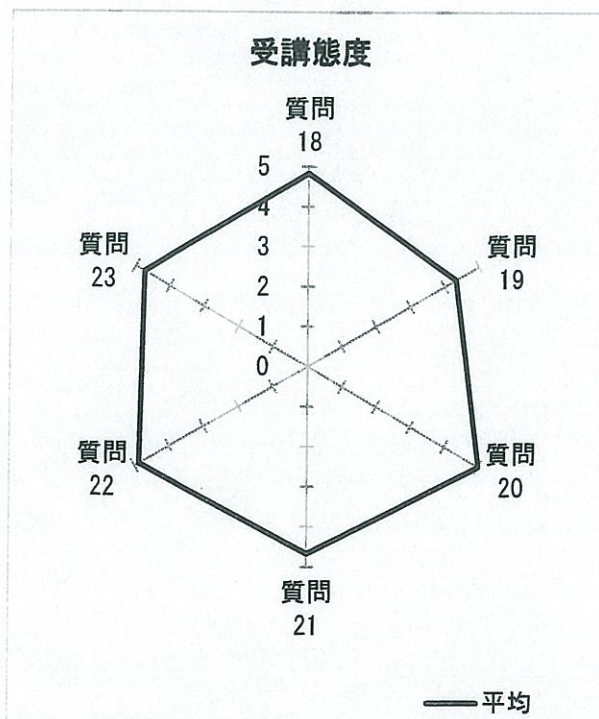
科目コード 543 (2018年度 前期)

看護学部 看護学科 山口 智美 教養セミナー I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.3
質問20	5.0
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	山口智美	教養セミナー I	24

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

担当受講生 24 名のうち 24 名が回答した（回答率 100%）。質問番号 7 から 17 の 11 項目中 5.0 ポイント 3 項目、4.9 ポイント 3 項目、4.8 ポイント 4 項目、4.7 ポイント 1 項目（最大 5 ポイント）であった。5.0 ポイントの項目は「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「教員の話し方」「教員の説明のわかりやすさ」だった。また、4.7 ポイントの項目は「教材・機器・板書等の効果的な使用」であった。教養科セミナー担当者としては、新聞活用学習が学生の社会的な視野を広げる可能性を体験的に感じたが、同様に学生も本科目を高く評価していたことが明らかとなった。本科目は 1 年次前期に配置された教養科目の 1 つの柱となっており、大学生として求められる学び方を知り、学習者としての姿勢を培う初段階の有意義な科目と考える。よって丁寧で明確な科目ガイダンスやシラバスに即した進行、教員の説明や課題の解釈・補足は非常に重要であり、学生の興味関心を引き出す動機付けと成り得ると考える。資料・資材については新聞やコースブックと紙媒体であり視聴覚教材などの多様性に欠けている点は否めない。

学生自身の授業態度及び取り組みを問う質問 18～23 の 6 項目の総得点平均は 4.7 ポイントだった（5.0 ポイント 1 項目、4.9 ポイント 1 項目、4.8 ポイント 2 項目、4.7 ポイント 1 項目、4.3 ポイント 1 項目）。5.0 ポイントの項目は出席であり、全員が無欠席であった点が評価されたものである。4.9 ポイントの項目は「レポート・課題等に積極的に取り組んだ」であり、熱心に取り組んだことがうかがえた。目標を理解して取り組む姿勢や予習・復習面については 4.3 ポイント低くなっていた。大学生として受身ではなく積極的に目標を理解して自ら到達するという学習姿勢やスタイルが伝わり難かった可能性もある。

本評価及び学生の実際的なレディネスを踏まえ、今後当該科目を担当するような場合にはその講義内容及び学習支援準備を行うこととする。自立した学習者となり、自主的に大学の各講義・演習・実習に取り組む中で、国内外の社会情勢を踏まえた視点を有することを期待すると同時に、教員側の教授方法を工夫する必要があると考える。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：教養セミナー I

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）
今年度評価が良好であった点を更に強化し、改善するために以下に取り組む。

- ・これまで同様に社会問題と看護専門分野・医療との繋がり の視点を補足する。
- ・可能であれば視覚教材を活用する（全学で標準化された科目のため難しいかもしれない）
- ・学生とのコミュニケーションを維持・向上するためにアクションシート（フィードバック用）を導入することを提案する。